



上田城 城下町 エリアビジョン

AREA VISION For Ueda Castle Town

令和8年10月



目 次

01 はじめに	P 2
02 市民の声	P 9
03 ビジョンの骨格	P15
04 重点アクション	P22
05 ビジョンの実現に向けた基盤整備	P40
06 期待される効果	P47
07 おわりに	P49

01

はじめに

AREA VISION

01 はじめに | メッセージ

上田城跡公園を歩くと、市街地にいることを忘れるくらいの自然と出会えます。春は千本桜が一斉に花を咲かせ、夏は力強く青々とした緑が生い茂り、秋には目を見張る美しい紅葉が道を染めます。雪景色に染まる3つの櫓やぐらと東虎口櫓門ひがしこぐちやぐらもんは、冬の静寂をさらに際立たせる素晴らしい景観です。

公園の外へ出れば、1583年の上田城築城から400年以上にわたり紡つむがれてきた城下町が広がります。江戸時代から残る北国街道柳町や上田藩主居館跡（現在の長野県上田高等学校）、明治以降に蚕糸業さんしで発展した「蚕都上田」さん とを象徴する常田館製糸場ときだや上田蚕種協業組合事務棟等が、時代を越えて点在・現存しています。蚕都上田さん との時代には、城下町に映画館や演劇場が立ち並び、多くの市民に娯楽を提供していました。また、郊外からもアクセスしやすいように、市内には4つの鉄道が走っていました。上田映劇は、その当時にタイムスリップできる貴重な映画館として今も残り、別所線（旧上田温泉電軌川西線）は、今でも市民の移動を支えています。上田の歴史と文化を学べる上田市立博物館やサントミュージゼ（上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館）があることも、このまちの魅力の1つです。

上田城跡公園と城下町（以下、「城下町エリア」という。）は、自然と400年以上の歴史・文化を感じられる場所であると同時に、受け継がれてきた「不屈の精神」「ものづくりの心」「蚕糸業さんしで培われた高度な技術力」が現在へとつながる拠点でもあります。こうした背景が、クリエイターや起業家を惹きつける場所をつくり出しています。また、芸術文化や福祉の分野においても、城下町エリアを拠点とした個性的な取組がみられ、全国的にも評価されています。

そのほか、店主に会いに来たくなるような程よい距離感の関係性や、車が道路空間において歩行者優先で一時停止してくれるような優しさは、城下町エリアの日常に馴染む魅力といえます。

私たちは、そんな城下町エリアをこれからも大切に育み、市民や訪れる人が居心地よく感じられる場所にしていくため、様々な方と対話しながら「上田城 城下町エリアビジョン（以下、「本ビジョン」という。）」をつくりました。本ビジョンには既に始まっているアクションから、すぐには実現できない理想のアクションが書かれていますが、本ビジョンを市民一人ひとりと共有し、ともに実現していけることを願っています。

01

はじめに | 上田城 城下町エリアビジョンについて

エリアビジョンって何なの？

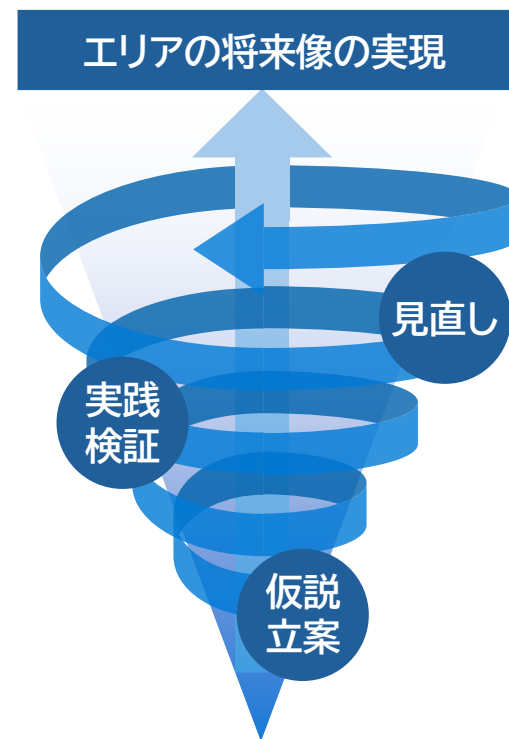
- ✓ 市民一人ひとりが思い描くエリアの将来像を足し合わせた“旗印”のようなものです。
- ✓ 城下町エリア(上田城跡公園+城下町)に特化したビジョンです。
- ✓ 行政だけでなく、市民や民間事業者等と一緒に“公民連携”で実現するものです。

なぜエリアビジョンが必要なの？

- ✓ 城下町エリアは、人口減少や空洞化など、様々な問題に直面していますが、この危機は行政だけで乗り越えることはできません。
- ✓ 立場を超えて多くの人たちで議論し、将来のまちづくりに向けて方向性(力)を合わせる必要があるからです。

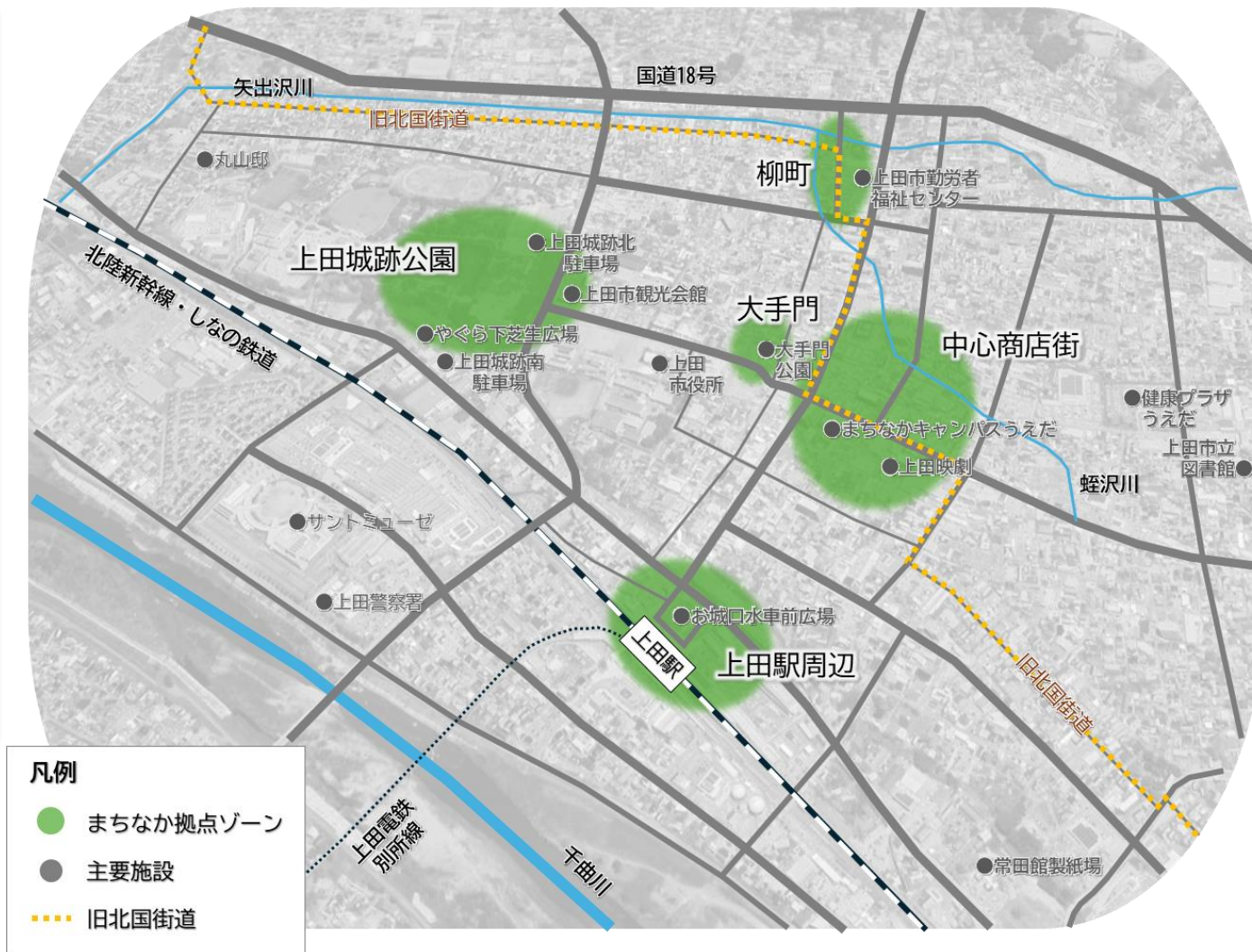
エリアビジョンをどうやって実現するの？

- ✓ 本ビジョンの内容は、あくまで策定時点での仮説です。実践→検証→見直しを繰り返し、「つかう」視点と「つくる」視点の両方をもちながら、将来像の実現を目指します。



01 はじめに | 対象エリア

- 本ビジョンは、右図の「城下町エリア」を対象とします。
- 城下町エリア全体で取り組むだけでなく、核となる「まちなか拠点ゾーン」を位置づけて、積極的に取り組みます。
- エリア内で、公民が連携して小さなアクションを積み重ねることで、エリア全体の価値を高め、将来像の実現を目指します。



01

はじめに | なんで城下町エリアなの？

- 城下町エリアは400年以上前から、上田市のヒトやモノが集積する場です。その求心力が低下することで、経済や交流の核が失われ、市の財政逼迫、公共サービスの低下等につながり、市全体の生活の質の低下等につながる可能性があります。

<城下町エリアにおけるヒト・モノ・カネの循環イメージ>



01

はじめに | 城下町エリアのポテンシャル

- **城下町エリア**には、多様な**ポテンシャル**が集積しています。このポテンシャルを**維持**し、**発展**していくことが、**上田市全体にとっても大切**です。



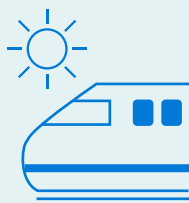
城下町に由来する400年以上の歴史

上田城の築城から400年以上にわたり紡がれてきた、歴史文化豊かな城下町エリアには、上田城跡公園や北国街道柳町、上田藩主居館跡、「蚕都上田」を象徴する常田館製糸場など、時代を越えて積み重ねられてきた歴史文化施設が点在・現存しています。



多様な出会いが生まれやすい“人間サイズ”のまち

城下町エリアは、旧北国街道が通り、当時から人の往来が多く、移住者を受け入れやすいヒューマンスケールな都市構造やオープンマインドな風土が残っています。また、教育機関や外国人居住者が多いなど、多様な出会いが生まれやすいエリアになっています。



ちょうどいい暮らしやすさ

上田市は、晴天率が高く、積雪も少ないため、暮らしやすい気候にあります。また、城下町エリアは、北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線、バス、シェアサイクル等の公共交通が集積し、商業施設も多く買い物がしやすいなど、利便性が高いエリアになっています。

01

はじめに | 検討プロセス

- 本ビジョンの策定にあたっては、上田市とパートナーシップ協定を結んでいる上田ビジョン研究会をコアメンバーとし、高校生・大学生とのまち歩きやワークショップ、地域で働く方々、プレイヤーの方々へのヒアリング、高校生へのアンケート調査、アドバイザー等からの助言を受けながら作り上げました。



内容	R6年度						R7年度										R8年度									
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
エリアビジョンの策定	現状整理			骨子案に関する意見交換											ビジョン案に関する意見交換					関係者確認					策定	
関係者ミーティングの実施(アドバイザー含む)	★		★	★	★		★	★		★		★		★	★	★		★	★							
各種調査や社会実験等の実施						★			★	★		★														
まち歩きやワークショップの実施									★																	
プレイヤーへのヒアリングの実施							★																			
高校生へのアンケートの実施	空き地活用の社会実験																									
報告会等の実施				★									★	★						★					★	
													</													



02

市民の声

AREA VISION

02 市民の声 | 必要性

なぜ、市民の声が必要なの？

- ✓ ひと昔前であれば、行政主導でビジョンをつくり、実現に向けて試行錯誤していましたが、現在では人口減少に伴う人材不足や財政的な制約に加え、社会の多様化に伴い、課題は複雑になっています。
- ✓ 今回のビジョン作成は、「まちづくりは市民みんなで力を合わせるもの」という原点に立ち返り、市民と行政が一緒になって描くことから始めようと考えました。
- ✓ 本ビジョンは、つくって終わりのビジョンではなく、市民一人ひとりの旗印となり、実践と実現から「わたしたちのまち」という主役感を体感できる、生きたビジョンにしたいと考えています。
- ✓ そのため、より実効性の高いビジョンとするため、城下町エリアで暮らしたり仕事をしたりしている市民の声が必要であり、多様な皆さんにご意見をいただきました。

ヒアリング先

子育て世代・地元商店・宿泊事業者・観光事業者・工務店・大学生・文化振興団体



02

市民の声 | 多様な人との対話

約100名の プレイヤーの声



下記のプレイヤーにヒアリングを実施

商工会議所・地元商店街・文化振興団体・地元商店・工務店・宿泊事業者・観光事業者・子育て世代・大学生

約400名の 高校生の声



市内4校の高校生にアンケート調査を実施

期間: R7.8~R7.10
周知: 約3,000名
方法: 校内への掲示、学校からの案内等により周知

約100名の 社会実験協力者の声



イベントや社会実験に合わせて下記の各種調査等を実施

アンケート調査・ヒアリング調査・行動パターン分析・モニタリング調査・ワークショップ開催

約600名の デザイン会議参加者の声



「まちなかデザイン会議」を計6回開催(第1回~第6回)

対象: まちづくりに興味・関心のある方等
方法: 意見交換やアンケート調査で得た意見を反映

約1,200名の声や分析結果を集約し、ビジョンの骨格へ反映

02 市民の声 | プレイヤーの声

- ・城下町エリアで事業や各種活動に取り組んでいる「プレイヤー」の方々の意見は以下のとおりです。
- ・対面のヒアリングだけではなく、街歩きやワークショップなど、様々な方法で意見をお聞きしました。

地元商店	● 商店街を歩行者天国にする ● 歩行者天国の開催や、自動車の速度を制限する ● 柳町を歩行者優先にする ● 面白い人がたくさんいるのにその繋がりが弱い ● プレイヤー間で情報を繋げる人材が必要 ● 商店に対するオーニング設置の補助ができないか（日影がもっと必要）	● 面白いマップがあるといい ● 日影にベンチが欲しい ● 公共施設や駐車場を利活用する ● コーディネーターがいるといい
宿泊事業者	● 観光コンシェルジュや、人と人を繋げられるコーディネーターが欲しい ● 広く、開放的なカフェ空間が欲しい	● 情報発信やマップづくりが必要
観光事業者	● もっと観光客に優しいまちになる必要がある（案内、ガイド等） ● 大手門公園は城下町歩きの拠点になる	
工務店	● 上田城跡公園の公園利用を充実させる ● 高校生や大学生が集まれる場が欲しい ● 城下町のデザインコードがあってもいい	● 道路を封鎖して水車前広場を拡張させる ● 行きたくなるようなマップが欲しい ● 景観を阻害する高い建物は不要
子育て世代	● 公園や広場が欲しい ● 綺麗なトイレ、おむつを替えられる場所が欲しい	● 気軽に休憩できる場所が欲しい ● 緑がもっと増えて欲しい
大学生	● ストリートなど、まちの中で音楽が聴きたい ● 千曲川を活用したイベントがあるといい ● 上田電鉄別所線やシェアサイクルを充実させる ● 休憩スポット（給水、日影、作業）が欲しい ● 松本の「サザンガク」のように、学生が集まれる場所が欲しい	● 公園や緑がもっと増えて欲しい ● いろいろなマップがあるといい ● 日影にベンチが欲しい ● 学生が楽しめる場所がわかるマップが欲しい
文化振興団体	● サントミューゼを活かす ● 上田城跡北駐車場を起点にまちを歩いてもらう ● 大手門まちかどテラスを城下町周遊の拠点にして、案内、ガイダンス機能を持たせる ● もっとまちに音楽やアートに触れられる場所があってもいい ● 昔発行していたサンポミューゼのような情報誌があるといい ● 高校生や大学生が勉強等できる場所があってもいい	● 同じデザイン、コンセプトの休憩スポットをまちに点在させる

02

市民の声 | 地元高校生の声

- 上田市内の高校に通う生徒へのアンケート調査から得られた、主な意見は下記の通りです。

普段、誰かと話している時間を「楽しい」と感じていて、まちには買い物、勉強、おしゃべりできる場所が求められています。また、“上田城”や“上田城下町”を大切だと感じている高校生が多いことも分かりました。

●普段「楽しい」「居心地が良い」と感じる時間(複数回答)

1位	誰かと話す時間(68%)
2位	部活・班活する時間(48%)
3位	飲食する時間(47%)
4位	ぼーっとする時間(45%)
5位	ショッピングする時間(43%)

●居心地の良い「まちなか」にするために必要な場所や機能(複数回答)

1位	買い物や飲食ができるお店(51%)
2位	勉強ができるスペース(46%)
3位	友達とおしゃべりなどできる場所 ※屋内:若者の交流スペースなど(41%)
4位	安心してスポーツ・運動ができる場所(26%)
5位	友達とおしゃべりなどできる場所 ※屋外:公園や広場など(25%)

●20年後の上田市はどんなまちになって欲しいか(自由回答を集計)

1位	賑わいのあるまち、お店が沢山あるまち
2位	新しいものを積極的に取り入れるまち
3位	人のつながりがあるまち、誰かと気軽に話ができるまち
4位	歴史・文化を大切にするまち
5位	子育てがしやすいまち、子どもが安心して暮らせるまち

●“上田城”や“上田城下町”は大切な場所だと感じるか(単数回答)

1位	とても感じる(53%)
2位	少し感じる(41%)
3位	ほとんど感じない(4%)
4位	まったく感じない(2%)

02

市民の声 | 社会実験の結果

- 上田市が、部署横断のプロジェクトとして、「居心地が良く歩きたくなる“まちなか”づくり」の推進のため実施している「ちょいまちプロジェクト上田」では、上田駅お城口水車前広場や大手門まちかどテラス予定地等で、公共空間を様々な形で利活用する社会実験を実施しています。
- 大手門まちかどテラス予定地ではイベント時の滞在空間の創出や、上田駅お城口水車前広場では民間事業者によるイベントの開催など、空間活用のポテンシャルや賑わい創出への可能性を確認しました。
- 社会実験の来場者アンケート調査では、まちなか(城下町エリア)に「子どもが安心して遊べる場所」や「屋外で気軽に飲食できる場所」を望む声を確認しました。

これまでの社会実験

●2025/3/1-2

「261」に合わせた大手門まちかどテラス予定地でのアンケート調査、テーブル・椅子の設置等

●2025/5/30

上田駅お城口水車前広場で「ちょい飲み広場」を開催

●2025/6/7

「海野町まつり」に合わせたアンケート調査の実施等

●2025/9/9

大手門まちかどテラス予定地でのベンチ製作ワークショップの開催



03

ビジョンの骨格

AREA VISION

03

ビジョンの骨格 | 目指す将来像

目指す将来像

上田城の歴史や文化を礎に、
誰もが歩きたくなる、暮らしたくなる、挑戦したくなる
城下町エリア

- これまでの様々なご意見を踏まえて、城下町エリアが目指す将来像を考えました。
- 城下町エリアのコンパクトな都市構造と充実した公共交通を活かし、誰でも歩きたくなるエリアにすることで、健康的で安全・安心な暮らしができるようになります。
- また、城下町エリアで過ごす時間が増えることで、上田らしい魅力あふれる日常を発見できるようになります。
- さらに、市民一人ひとりが「やってみたい」という想いを語り、互いに認め合い、応援し合える関係性ができることで、抱えていた不安が一つずつ解消し、新たなアクションが生まれます。
- そして、予期せぬ出会いによる化学反応が起こることで、新しい価値が生まれ、城下町エリアが居心地がよく、チャレンジもできるエリアとなり、日常に幸せと豊かさを実感できる機会が増えることが期待されます。

03

ビジョンの骨格 | 合言葉

- 将来像である「上田城の歴史や文化を礎に、誰もが歩きたくなる、暮らしたくなる、挑戦したくなる城下町エリア」を目指すために、本ビジョンの合言葉を下記のフレーズに設定します。

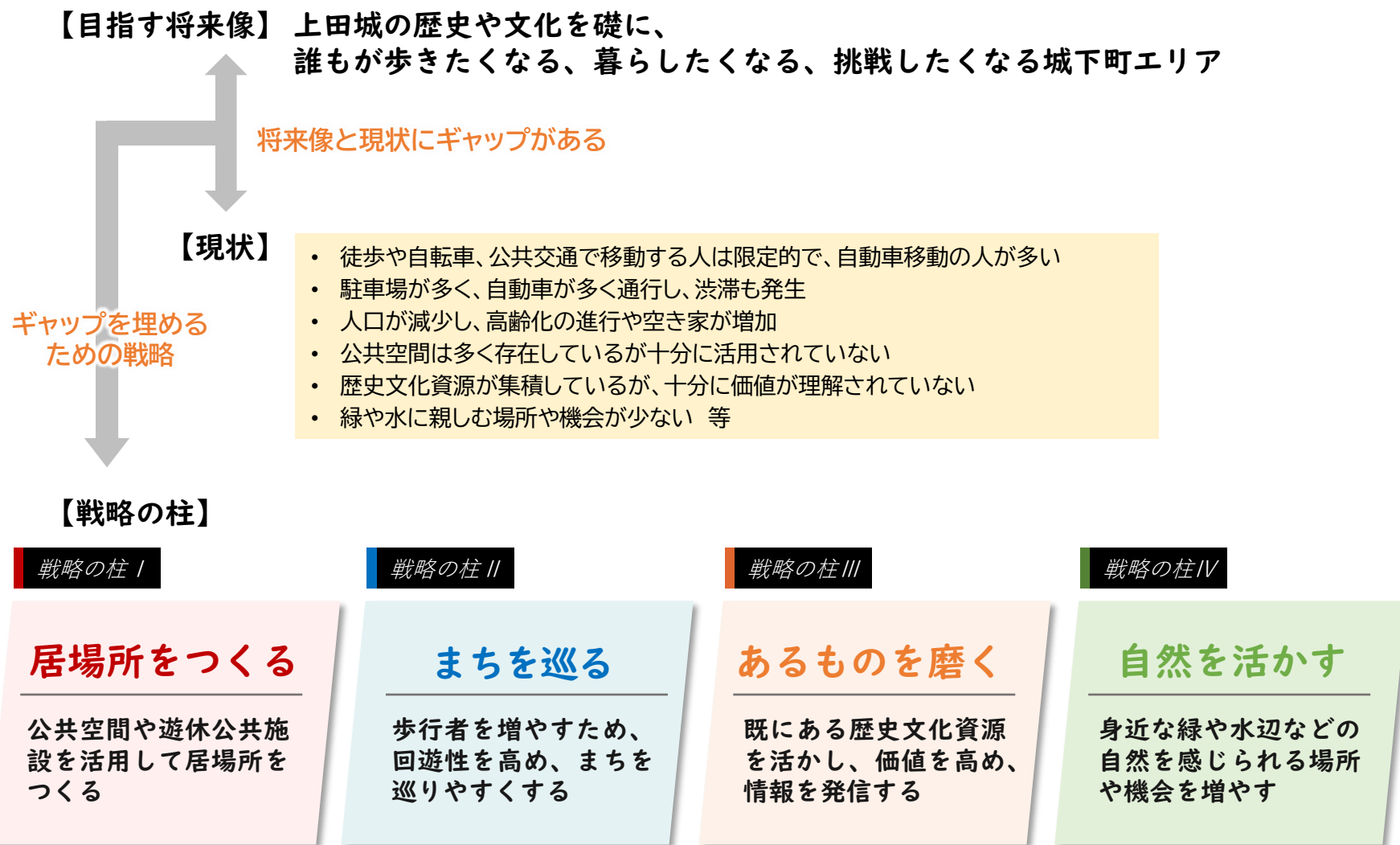
踏みだしたくなるまち



- 「踏み出したくなる」には、実現したい将来像にちなみ、市民や来街者が訪れたくなるという意味や、歩いてまちを巡りたくなるという意味、そして、城下町エリアで暮らしてみるなど、新しいことや次の段階に挑戦したくなる等の意味が込められています。
- この合言葉は、目指す将来像に向け、できるだけ多くの人たちと方向性(力)を合わせていくために、市民、事業者、来街者、専門家、行政等のみんなの認識を紡ぐ合言葉として、活用していきたいと思います。

03

ビジョンの骨格 | 現状・課題と戦略の柱

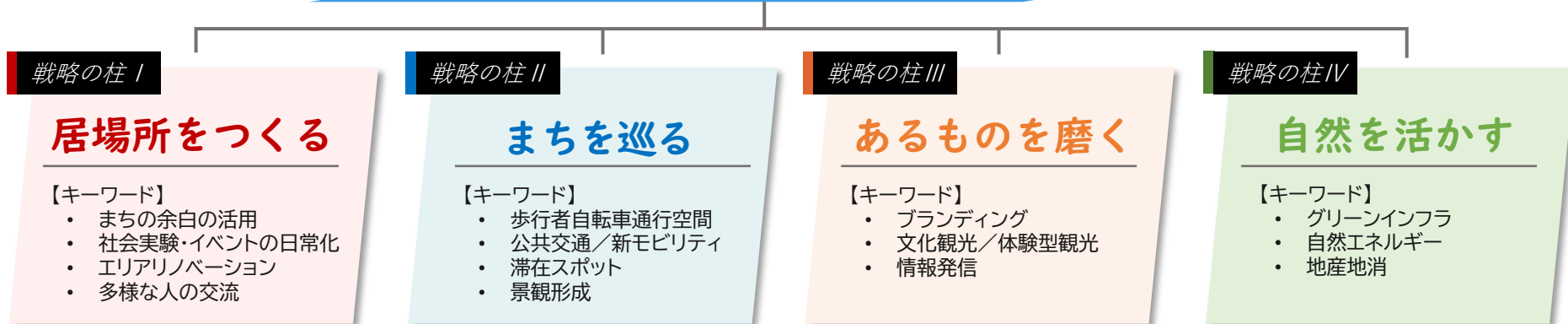


03

ビジョンの骨格 | 全体像

【目指す将来像】 上田城の歴史や文化を礎に、
誰もが歩きたくなる、暮らしたくなる、挑戦したくなる城下町エリア

【ビジョンの合言葉】 踏みだしたくなるまち



<重点アクション 通称“ちょいまちアクション”>

①大手門まち かどテラスの 居場所化	②上田城跡 公園の セントラルパーク化	③「歩く」 ことの目的化	④公共空間 の活用促進	⑤ちょいまち スポットの 認定・整備	⑥安心・安全 な道路環境 の創出	⑦歩く人に優 しい道路空間 活用の促進	⑧連鎖型 エリア リノベーション
⑨まちなか 駐車場の モビリティ化	⑩自由に移動 できるモビリティ ネットワークの構築	⑪つい 歩きたくなる 景観づくり	⑫城下町 体験型ツアー の開催	⑬ブランディング と情報発信の 強化	⑭都市内 緑地の保全 整備	⑮エネルギー の地産地消	⑯水辺空間 の利活用

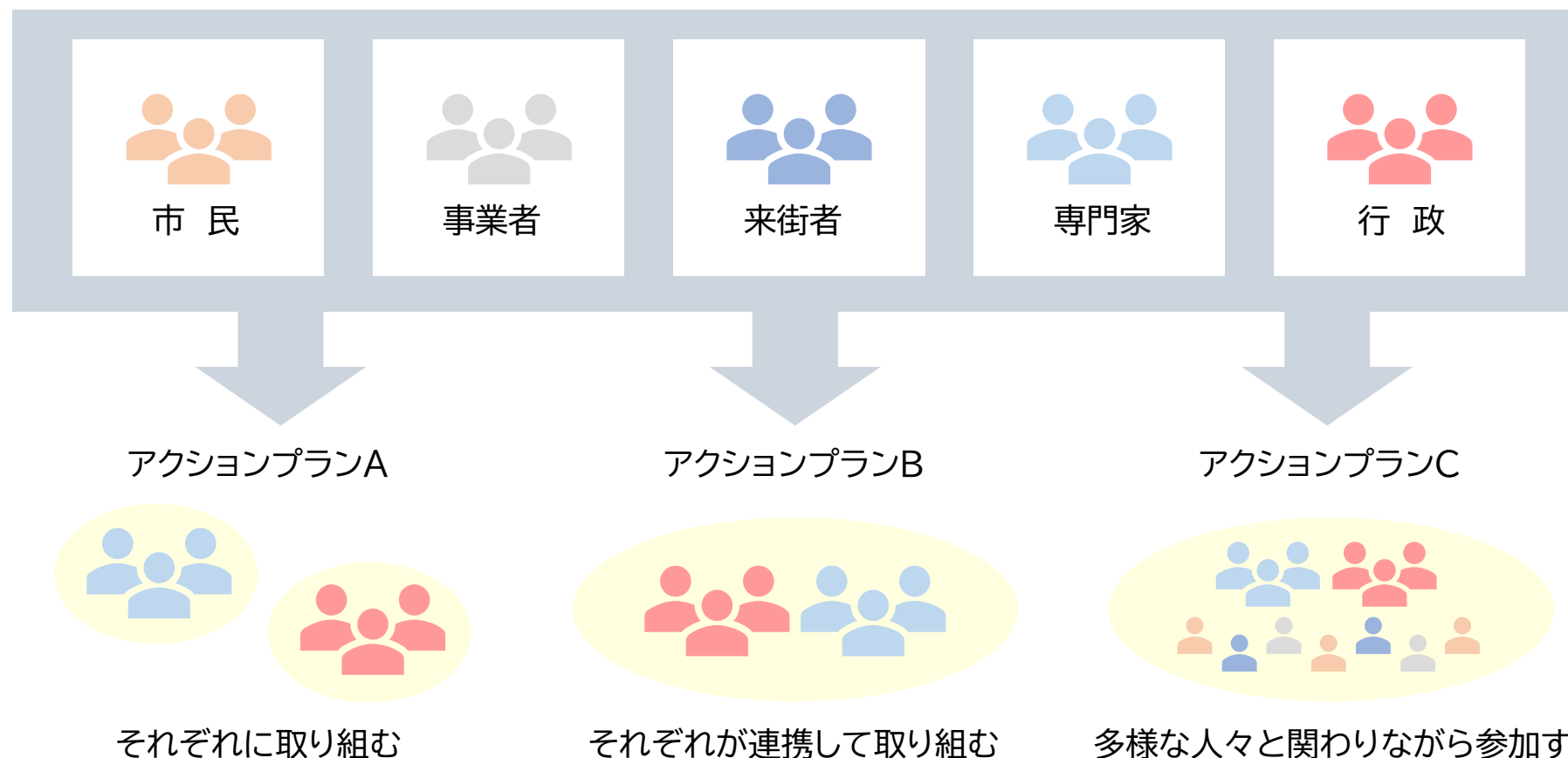
<ビジョンの実現に向けた基盤整備>

I：城下町エリアビジョン 推進体制の構築	II：身近な 仲間づくり	III：エリアへの 投資の促進	IV：データ活用による フォローアップ	V：城下町エリアと 周辺地域のつながりの強化
-------------------------	-----------------	--------------------	------------------------	---------------------------

03

ビジョンの骨格 | 推進体制

- 城下町エリアには、多様なプレイヤーにより、様々なアクションが既に生み出されています。重点アクションは、市民・事業者・来街者・行政等の主体が、それぞれの状況に応じた多様なチームを構築しながら、また、必要に応じて多様な人々と関わりながら進めていきます。



03

ビジョンの骨格 | 見直しの仕組み

- ・冒頭でも記載したように、本ビジョンの内容は、あくまで策定時点での仮説です。今後は、立案した仮説に基づき、重点アクション(ちよいまちアクション)を実践・検証し、結果に応じて内容の見直しを何度も繰り返しながら、エリアの将来像の実現を目指します。
- ・また、随時市民の声に耳を傾けたり、専門家にアドバイスをもらったり、他都市の先進的な事例を参考にするなど、多角的な視点で見直します。

いつ？

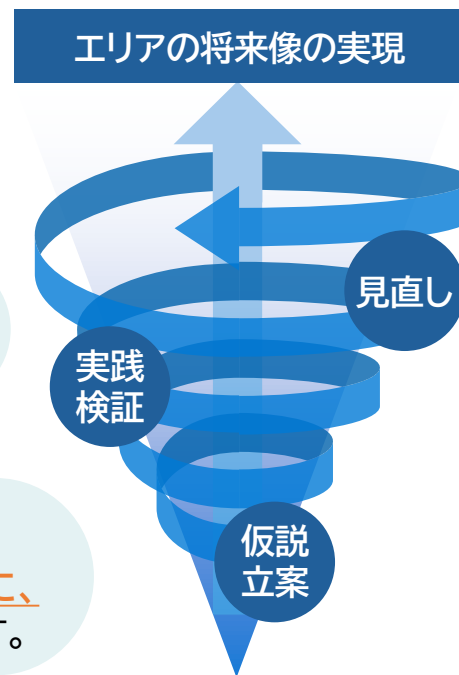
- ✓ 前もって時期を決めることはせずに、見直しが必要なタイミングで随時行います。

だれが？

- ✓ 市民やアドバイザー、専門家の声を随時間きながら、「上田 城 城下町エリアビジョン推進チーム」が見直しを行います。

どうやって？

- ✓ まずは、重点アクション(ちよいまちアクション)を実施します。
- ✓ アクションの中で得られた経験や体験、参加者の声などをもとに、将来像とのギャップを確認しつつ、見直しを繰り返していきます。



04

重点アクション

AREA VISION

04 重点アクション

“ちょいまちアクション”

- 上田市では、本ビジョン策定以前から「居心地が良く歩きたくなる“まちなか”づくり」の推進のために、部局横断プロジェクト「ちょいまちプロジェクト上田」を立ち上げ、「気軽なアクションから始める」「人の視点で考える」をコンセプトに、様々な関係団体と連携して活動しています。
- 「ちょいまち」のコンセプトには、「少しのことからちょっといいまちを」の思いが込められており、本ビジョンの将来像を実現していく上で、土台となる考え方ともいえます。
- よって、これまでのように小さくてもできることから始めてみる心構えを引き継ぎ、さらに高めていく意味を含めて、本エリアビジョンに位置付ける重点アクションの通称を“ちょいまちアクション”とし、SNS等でも積極的に発信していきます。



▼ロゴマーク



04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■①大手門まちかどテラスの居場所化

イベントや情報発信、まち歩きの手掛となる“城下町の顔”として、
「大手門まちかどテラス」を居心地のいい空間に再整備します



アクション案

- 城下町エリアの中心であり、上田城の玄関口に位置する「大手門まちかどテラス」には、休憩やイベントが開催できる広場、情報発信拠点など、必要な機能を検討します。
- 施設や広場の運営には、上田の魅力を発信し、コンテンツを生み出すことができる民間事業者が参画できるような組織体制を検討します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・滞在機能(ベンチ・トイレ・滞在スペース・給水)
- ・インフォメーション機能(情報発信、まち歩きサポート)
- ・広場機能(イベント開催)等の整備

▼イベントの出店スペースとしての活用／大手門まちかどテラス予定地



▼ベンチの設置による滞在スペースの創出／大手門まちかどテラス予定地



もう踏みだしている取組

- 261(にーろく市)では、キッチンカーやテントが並び、イベント広場、飲食スペースとして活用
- 廃材を活用したベンチを製作・設置し、誰でもゆっくり滞在できるスペースとして開放 等



04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ
居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ
まちを巡る

戦略の柱Ⅲ
あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ
自然を活かす

■②上田城跡公園のセントラルパーク化

四季をとおして、
日常的にゆったり過ごせる場所として整備・活用します

アクション案

- 上田城跡公園は、歴史的な資源が豊富で、市民や来街者がまちなかで寛ぐことができる貴重な都市内緑地になっています。
- 上田城跡公園に人が集まることで、まちなかの滞在時間を増やし、さらには、公園を起点とした回遊を誘導することで、周辺エリアへ人の流れを生み出します(Park-PFIの活用等)。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・上田城の緑をゆったり眺めるカフェスペースの整備
- ・ウォーキングコースの設定と案内の充実
- ・キャンプ場や音楽・映画イベントの会場としての活用
- ・市民がくつろげる広場の整備、児童遊園地の改修
- ・ペットに優しい公園整備(トイレ、水飲み場) 等

もう踏みだしている取組

- 上田城にて、GPSを活用した「まちなか音声ガイド」の実証実験を実施し、実装化にむけて検証
- 公園内でのラジオ体操やヨガ等による健康増進 等

▼広場で談笑／上田城跡公園



▼広場で花見／上田城跡公園



▼櫓でのお月見会／上田城跡公園



▼音声ガイドの実験／上田城跡公園



04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ
居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ
まちを巡る

戦略の柱Ⅲ
あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ
自然を活かす

■③「歩く」ことの目的化

城下町エリアに行く理由の一つに「歩きたいから」が選ばれるよう、
「歩く」ことを新たな文化として育てます

アクション案

- 「歩く」ことは健康にいいのはもちろんのこと、脳の若返りやアイデア創出にも効果があることを周知し、自動車から「歩く」への行動変容を促します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・歩く効果やコースの紹介、歩く魅力を発信する冊子の作成・配布
- ・血糖値や血圧、がんや心疾患等と「歩く」の関係をデータや具体例等で周知（健康診断等で配布）
- ・「歩く」とアイデアが降ってくる古今東西の偉人たちのストーリーの紹介、ウォーキングミーティングの推進
- ・歩く×公共交通利用でポイントが貯まるアプリの開発
- ・ウォーカブル区域の検討、指定
- ・ウォーキングイベントの定期開催

▼「歩く」をテーマにした勉強会の開催／第5回まちなかデザイン会議



▼ウォーキングコースの紹介



▼ウォーキングミーティングの実施



もう踏みだしている取組

- 「歩くと人生が変わる？」をテーマに、経済ジャーナリストの池田光史さんを講師とした勉強会を開催し、「歩くこと」から始まるまちづくりについて参加者で意見交換

※引用：上田市HP資料

04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■④公共空間の活用促進

ポテンシャルを活かしきれていない公共空間の可能性を検証し、
“地域に開く” ことで既存ストックを最大限活用します

アクション案

- 老朽化した公共施設やあまり使われていない公共空間について、市民や事業者等の利活用を促進し、既存ストックを最大限に活用していきます。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・上田駅 駅前広場のリニューアルを検討（上田駅前水車前広場の再整備や活用促進含む）
- ・上田城跡公園やぐら下多目的広場の活用促進
- ・歩道の空きスペースへの小規模駐輪場の設置
- ・上田市役所の自由利用に関する情報発信（高校生や大学生の勉強・休憩・交流スペースとして活用）
- ・ナイトタイムエコノミー（カルチャー）の推進 等

もう踏みだしている取組

- 公共空間のイベント創出に向けた社会実験として、上田駅お城口水車前広場にて、キッチンカー等による飲食、物販等の営利活動を行う出店を試行 等

▼ジャズフェスでの活用／上田駅水車前広場



▼水辺で乾杯
／上田駅水車前広場



▼MATCHフェスの開催
／上田城跡公園やぐら下多目的広場



04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑤ちょいまちスポットの認定・整備

誰でも気軽にゆったりと滞在できる
“ちょいまちスポット”をエリア内に増やします



アクション案

- 既存店舗や公共施設等を活用して、市民や来街者が気軽に立ち寄り休憩できる“ちょいまちスポット”を整備・認定することで、居心地が良く、滞在できる環境を創出します。
- また、場所を世代や年齢を問わず、交流や助け合いが広まる場としても活用していきます。さらに、ベンチやトイレ、日陰等の休憩や滞在に必要な機能を増やします。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・ちょいまちスポットの整備・認定
(トイレ、休憩・案内スペース、給水機等を設置)
- ・休憩等に必要な機能設置に係る支援
- ・多様な人々が交流する機会の創出支援
- ・上田市役所「大手ラウンジ」の週末開放 等



もう踏みだしている取組

- まちなかキャンパスを交流や学びの場として活用
- クーリングシェルター(指定暑熱避難施設)の開放
- 犀の角や上田映劇でのアートやケアの活動 等

▼上田市「大手ラウンジ」／生成AIで作成



▼給水機イメージ



※引用:swee HP

▼ベンチ等の設置／iプラザうへだ



▼内装イメージ／生成AIで作成



04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑥安心・安全な道路環境の創出

歩行者・自転車・自動車などの道路利用者のそれぞれが、
思いやりをもって、安全・快適に通行できる道路環境をつくります



アクション案

- ベビーカーを押す家族連れ、子どもたち、高齢者など、様々な通行人が、まちなかを安全に安心して歩き、もっと歩きたくなる道路環境づくりを目指します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・歩行者自転車ネットワークや誘導方策の検討(高校生の通学経路調査の実施)
- ・城下町エリア版「歩行者優先看板」の制作
- ・自動車の速度抑制やお願い通行規制の検討
- ・歩行者の安全を確保するための自転車通行空間整備
- ・夏の日差しを避ける連続した日除け、ミストの設置
- ・ベンチや滞在スペースの適正配置
- ・歩行者優先を実現する信号のあり方検討 等



もう踏みだしている取組

- 柳町で自動車一方通行のお願いを実施
- 柳町で自動車が通りに流入しないように、駐車場を新設
- 自転車通行空間の試験的な整備(新参町線) 等

▼「おねがい一方通行」の社会実験の実施／柳町



※引用: 上田市HP資料



▼歩行者と自転車の分離／金沢市



▼シェアード・スペース看板／長門市



04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑦歩く人に優しい道路空間活用の促進

自動車のための空間から「歩く人のため」の空間へ
道路空間活用の日常化を目指します



アクション案

- 自動車中心となっている道路空間を、安全に買い物ができ、人と出会うことができる場にするために、人中心の道路空間への再編を目指します。
- 再編にあたっては、交通規制等の社会実験を通して、段階的に「広場」の日常化に向けた検討を進めます。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・交通規制社会実験の実施(車線の減少、速度制限、通行止め等)
- ・トランジットモール化の推進
- ・効果検証による評価
(来街者、商店街関係者に対する調査、交通量調査)
- ・多様な企画の開催(芸術祭、朗読会)
- ・歩行者利便増進道路や道路協力団体制度の活用 等



もう踏みだしている取組

- 「海野町まつり」では、中央2丁目交差点～横町交差点間を通行止めにし、出店エリアや子どもたちが遊べるスペースとして開放 等

▼お願いベースの一方通行により車の進入が抑制された道路空間／柳町



▼歩行者天国の実施／海野町



▼移動手段調査等の実施／海野町



04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ
居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ
まちを巡る

戦略の柱Ⅲ
あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ
自然を活かす

■⑧連鎖型エリアリノベーション

空き家等のリノベーションを集中的に連鎖させ、
訪れたくなる、暮らしたくなる通りやエリアをつくります

アクション案

- 空き家や空き店舗の利活用を進めるために、多様な用途でのリノベーションを推進し、誰もがチャレンジでき、暮らせる場とすることで、通りやエリアの価値を高めます。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・空き物件のリノベーションの重点支援
- ・小さな商いにチャレンジできる店舗整備への支援(例：ギャラリー併設のアトリエ、食べ歩きできる商品を提供する飲食、本屋、ブックカフェ等)
- ・空き物件巡りツアーの定期開催
- ・イベント時の空き物件の活用促進
- ・事業継承の支援 等

もう踏みだしている取組

- リノベーションまちづくり支援として、まちづくり上田が主催となり、リノベーションをテーマにしたまちあるき「Meets上田のまち」を開催 等

▼販わいの拠点となるリノベーションの推進／26bldg



▼空き物件やリノベーション物件を巡るツアーの開催／Meets上田のまち



※引用：まちづくり上田HP

※引用：まちづくり上田HP

04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ
居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ
まちを巡る

戦略の柱Ⅲ
あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ
自然を活かす

■⑨ まちなか駐車場のモビリティハブ化

まちなか駐車場を徒歩や自転車にモードチェンジできる拠点として整備し、
まちを巡るためのサービスや機能を拡充します

アクション案

- 過度な自動車の流入を抑制するために、自家用車を駐車場に止め、そこから徒歩やシェアサイクル等でまちを巡ることができるような環境づくりを推進します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・ 駐車場利用者へのまちなか買い物サービス券発行、サービス券の使える店舗情報の発信
- ・ 駐車場を連携させ、複数の駐車場が使い放題となる1日パスを発券。
- ・ 駐車場から徒歩やシェアサイクルに切り替えられるパーク&ライド・ウォークの推奨、情報発信

▼30分無料／海野町パーキング



▼買い物で割引／タイムズ上田柳町



▼まちなか駐車場に設置するシェアサイクルポート／左：上田城跡北、右：上田城跡南



もう踏みだしている取組

- 海野町では駐車場を30分無料、柳町では買い物で90分無料になるサービスを実施しており、買い物ついでにまちなかの回遊を促進 等

■⑩自由に移動できるモビリティネットワークの構築

各交通モードの充実を図ることにより、自由にまちなかを訪れ、回遊できる
モビリティネットワークを構築します



アクション案

- 自由に城下町エリア内を回遊するためには、歩く＋公共交通（鉄道・バス・シェアサイクル等）の充実が大切です。各交通モードや交通結節機能を充実させ、それぞれ相互に連携できるモビリティハブ環境を整備します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・わかりやすいバスルートや時刻表、料金体系の整備
- ・シェアサイクルの利便性向上（ポート拡充・通年運用）
- ・新しいモビリティの導入検討（カーシェア、自動運転、自走式ロープウェイ）
- ・公共交通乗り放題定期プランの検討
- ・モビリティマネジメントによる公共交通の利用促進



もう踏みだしている取組

- ・上田電鉄別所線の回数券（チケットQR）を割引して販売し、公共交通の利用を促進する取組を実施
- ・市内の交通結節点などにシェアサイクルポートを配置
- ・上田市の公用車を貸し出すカーシェア実証を実施

▼別所線＋シェアサイクルを組み合わせた活用事例／しおだトッコトコ



▼シェアサイクルポート／アリオ上田



▼カーシェアの実施／OURCAR



04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑪つい歩きたくなる景観づくり

城下町上田の歴史や文化を感じられる風情・魅力を活かした
落ち着いた統一感のある景観づくりを推進します



アクション案

- まちなかの建物はそれぞれに個性があるものの、線やエリアとしてのつながりが感じられにくいいため、落ち着きと統一感のある景観づくりにより、まちの風景につながりをもたせ、つい歩きたくなるまちへと進化させます。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・歩いて楽しくなる店舗デザイン(オープンカフェ)
- ・オーニングテントの連続による日陰づくり
- ・統一的なデザインの看板設置
- ・景観に配慮した駐車場整備の推進(塀や生垣設置)
- ・個性豊かで魅力的な夜間景観の創出
- ・建物の改修や整備に対する支援
- ・城下町エリアデザインガイドブックの作成 等



もう踏みだしている取組

- 柳町では、道路美装化(石畳化)、景観水路整備、電線類移転、小公園・緑地の整備、住宅等の修理修景等を実施等

▼景観に配慮した統一的な看板／柳町



▼沿道や道路の修景整備／柳町



▼紅葉に合わせたライトアップ／上田城跡



※引用: 上田市イメージデータベース

※引用: 上田市イメージデータベース

04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑫城下町体験型ツアーの開催

城下町エリアの豊かな日常や歴史・文化を体感できる
“(仮)城下町の日常体感ツアー”を企画・開催します



アクション案

- 城下町エリアには、豊かな日常を過ごすための、施設や多様なコンテンツが充実しています。観光用に新しく作るのではなく、日常をそのままコンテンツ化し、体験できるツアーを企画開催します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・エリア内を楽しく巡る音声ガイドの実施
→ホテルから上田城を巡る1時間コース等
- ・上田の魅力を語れるガイドの育成
- ・上田映劇、サントミューゼとの連携したツアーの開催
- ・上田駅や上田観光会館などで、エリア内を回遊するインフォメーションの実施 等



もう踏みだしている取組

- イベントに合わせて、城下町エリアの歴史や文化に触れるガイドツアーを開催 等

▼城下町エリアの歴史に触れるガイドツアーの開催



▼まち歩きイベントの開催



▼上田城を巡るツアーの開催



04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑬ブランディングと情報発信の強化

すでにある多様な活動をつなぐことで城下町エリアのブランド力を高め、
人々の顔がみえる温かみのある情報を発信します



アクション案

- 城下町エリアは、「あの人に会いたい」「誰かと出会えるかもしれないから、あの通りを歩きたい」と思われる魅力に溢れています。
- 既に発信されているイベント情報や観光情報等を活用しながら、営む人・暮らす人を主役として、上田らしい日常の温度感のある情報発信方法について検討します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・城下町エリアのヒト・モノ・コトをつなぐことによるブランド力の強化と情報発信(多様なモビリティによる“ついで行動”の促進、徒歩や自転車での回遊マップ作成など)
- ・大手門まちかどテラスやちょいまちスポットでの情報発信、ガイドツアー等の実践



もう踏みだしている取組

- 上田のまちあるきイベント「トコト」にちなみ、発行されている「トコトマップ」には、イベントに参加している店舗が紹介され、イベント日に限らず、日常的なまち歩きや観光でも活用 等

▼機関誌「SANPOMYUZE サンポミュージーゼ」



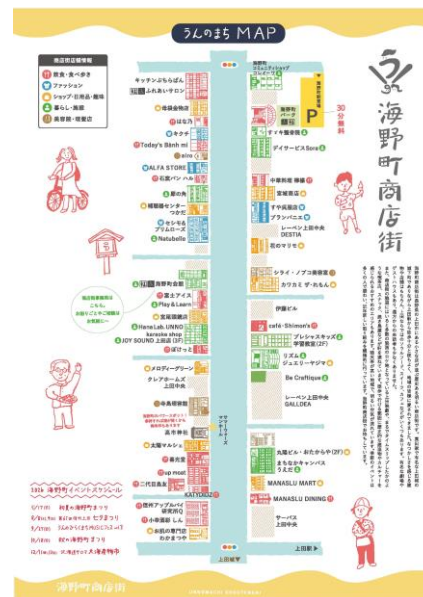
※引用:サンポミュージーゼHP

▼上田市「トコトマップ」



※引用:トコトマップ2025

▼海野町「うんのまちMAP」



※引用:海野町商店街HP

04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑭都市内緑地の保全整備

上田城跡公園を核とした “歩いて涼しい” 城下町グリーンネットワークをつくります



アクション案

- 都市内の貴重な緑を有している上田城跡公園を核として、城下町エリアからグリーンインフラを通り、巡ることができる環境整備を目指します。また、市民農園を通して、緑を身近に親しむことができる環境を創出します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・グリーンインフラの保全や整備の推進
- ・都市の余白を市民農園として活用
- ・ちょいまちスポットの緑化推進
- ・公共空地(駐車場等)の緑化、民地の緑化への支援
- ・街路樹のオーナー制度の導入
- ・環境に配慮した道路等の舗装の採用
- ・街路樹の落ち葉の有効活用
- ・グリーンインフラに対する市民のリテラシーの向上



もう踏みだしている取組

- 道路整備と併せて緑地やベンチ、ミストを整備し、滞在スペースとして活用 等

▼緑でまちを冷やす／国土交通省都市局アイデアブック

地域経済 防災

緑でまちを冷やす

オーストラリア・メルボルン



森林火災が度々発生するオーストラリア。持続可能で住みやすい都市を目指し、公共空間の樹冠被覆率（木が覆っている面積の割合）を2040年までに40%増加させることや、樹木の健康状態を改善することなどに取組んでいます。¹

木が建物に日陰を与えることで、エアコンなどの電気代削減が見込まれるほか、木陰が太陽光や熱を遮るので建物・道路の長寿命化にも役立ちます。

また、樹冠被覆率が10%増えると不動産価格が1.2%上がるというデータもあります。さらに、緑豊かなショッピングエリアでは、ショッピング客の消費額が10%程度増えることや、訪問頻度・滞在時間も増える傾向もわかってきました。³



エアコン代を
下げられるのは
ありがたいわあ



▼竹チップを用いた舗装／立科町(左写真)、神戸市(右写真)



04 重点アクション

戦略の柱Ⅰ
居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ
まちを巡る

戦略の柱Ⅲ
あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ
自然を活かす

■⑮エネルギーの地産地消

太陽光発電や省エネ・断熱を進め、
公共空間や暮らしを豊かで快適にする取組を実践します

アクション案

- 城下町エリアで太陽光発電や省エネを進め、公共空間や暮らしを豊かで快適にする実践を促進します。

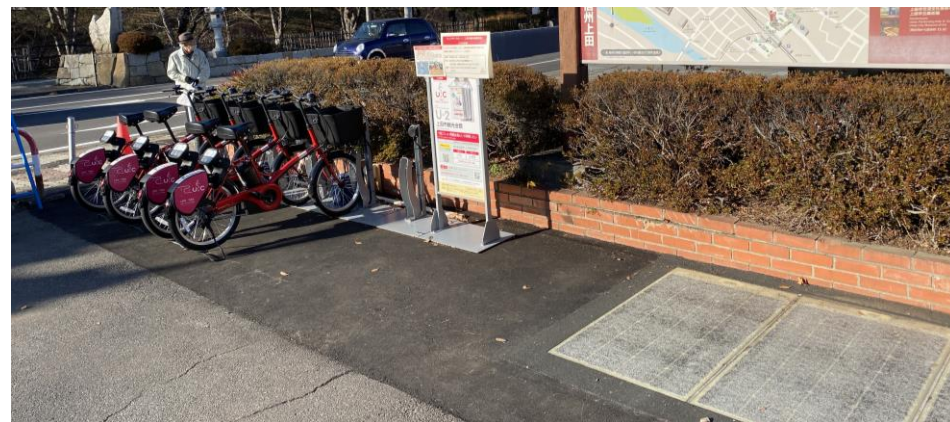
<具体的なアクションのイメージ>

- ・シェアサイクルポートへの太陽光パネルの設置
- ・ベンチの座面や屋根に薄型ソーラーパネルを設置し、スマホ充電や夜間の足元灯、夏のミスト噴射機に活用
- ・断熱改修による既存建物の省エネ推進
- ・断熱ワークショップによる啓蒙
- ・電力、熱、交通等のセクターカップリングの検討 等

もう踏みだしている取組

- シェアサイクル事業のゼロカーボン化を推進するために太陽光パネル＋蓄電池による非接触自動充電システムの導入 等

▼路面埋設型太陽光パネルにより充電するシェアサイクルポート／上田市観光会館



▼高校生を対象とした断熱ワークショップの様子



※引用：NPO法人市民エネルギーHP

04

重点アクション

戦略の柱Ⅰ

居場所をつくる

戦略の柱Ⅱ

まちを巡る

戦略の柱Ⅲ

あるものを磨く

戦略の柱Ⅳ

自然を活かす

■⑩水辺空間の利活用

まちなかを流れる千曲川や矢出沢川をフィールドとした
水辺で楽しむ環境を生み出します



アクション案

- 城下町エリアを囲むように流れる千曲川や矢出沢川は、アクセス性が高い水辺にも関わらず、十分な活用がなされていない状況です。
- 川や周辺の河川敷を含め、子どもから大人までの多世代が楽しみ、憩うことができる環境を生み出し、水辺空間を利活用した新たな魅力づくりを目指します。

<具体的なアクションのイメージ>

- ・アユの放流等の体験学習の実施
- ・SUPや川下り等の体験型イベントの開催
- ・水辺で乾杯等の水辺で飲食を楽しむ機会の創出
- ・まちなかを流れる用水や上田城の惣構堀の利活用
- ・水辺を活かす空間整備、飲食を楽しむ機会の創出
- ・上田駅から千曲川のアクセス性向上 等



もう踏みだしている取組

- ガイド付き千曲川リバーツーリングの実施 等

▼千曲川でのSUP体験イベントの開催／上田市



▼河川敷でのキッチンカー出店／金沢市



▼生き物観察会の実施／金沢市



05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

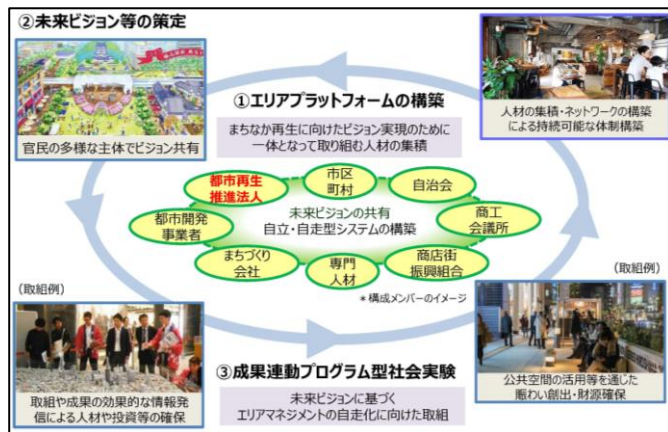
AREA VISION

05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

- ビジョンを作っただけで終わらず、実現させていくためには、そのための“体制づくり”や“仕組みづくり”（合わせて“基盤整備”）が重要になってきます。
- 本ビジョンは、上田市と民間団体で組織する「策定チーム」が、市民や来街者、プレイヤーなどから話を聞きながらまとめましたが、今後は、ちょいまちアクションを実行しながら仲間を増やしつつ、様々な人が関われるプラットフォーム(城下町エリアビジョン推進チーム)の立ち上げを検討していきます。
- また、官民間問わず、アクションには財源も必要になってくることから、多様な上田サポーターが城下町エリアへの投資や寄附ができる仕組みをつくりまします。
- その他、アクションの効果や進捗状況などをデータで示すほか、周辺地域とのつながりを強化していくことで、ビジョンの実現を目指します。

▼エリアプラットフォームについて／国土交通省HPから引用



▼仲間づくり／上田まちなかデザイン会議



05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

■ I：城下町エリアビジョン推進体制の構築

公民連携による将来的なエリアマネジメントを見据えた
「城下町エリアビジョン推進チーム」を立ち上げます

- アクションプランを継続的に実践していくため、策定メンバーを中心とした「城下町エリアビジョン推進チーム」を設置するとともに、関係団体と連携・協力し、公民連携による将来的なエリアマネジメントの体制・財源等のあり方を検討していきます。
- また、本ビジョンを実現していくために、アクションのテーマに応じて関連する部署が横断的にプロジェクトチームを組織し、部局を横断した体制で民間の取組を伴走支援していきます。
- 一方で、豊かな日常を維持・向上していくためには、商店街や公民館等の既存コミュニティによる“自治力”も大切にしていくことが重要であり、自主自立の市民活動の維持を支援していきます。

将来的なエリアマネジメントのあり方検討
(体制・財源・取組内容、自治力強化へのアプローチ方法など)

上田城 城下町エリアビジョン推進チーム
(上田市都市計画課・上田ビジョン研究会・
アドバイザー等)

連携
協力
↔

関係団体
(まちづくり上田(株)、上田商工会議所、
上田城下町観光協会等)

↑ プロジェクト毎に伴走支援

上田市役所関係課（プロジェクトチーム）

05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

■ II：身近な仲間づくり

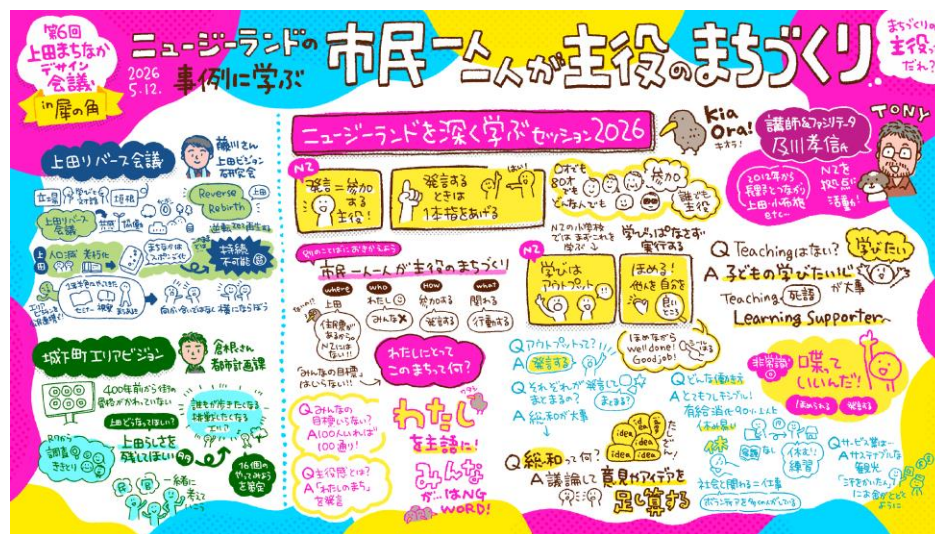
まちの将来や自分の夢を語ったり、
まちのために協働したりできる仲間を増やします

- 「まちをどのように変えるか」だけでなく、まちと関わる皆さんのリテラシーを高め、まちとの関係性をアップデートすることが必要です。
- 当事者として、まちに関わる意識を醸成し、まちに関わる仲間を増やしていくために、「(仮称)ちよいまちミーティング」等の自由に学ぶ場を設けたり、サポーター制度を設けたり、アイデアコンペを開催したりなど、それぞれの思いを共有できる場を作ります。また、仲間づくりを通して、まちづくりを資金面でも支援する協力者・協力企業を集め、まちへ投資する循環をつくります。

▼対話型のセミナー開催の様子／上田まちなかデザイン会議



▼グラフィックレコーディングによる意見の共有／上田まちなかデザイン会議



※グラフィックデザイナーの江村康子さんに描いていただきました

05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

■Ⅲ：エリアへの投資の促進

多様な上田サポーターが 城下町エリアへの投資や寄付ができる仕組みをつくります

- エリアの価値を高めるためには、プレイヤーの方々が稼ぎ、このエリアに再投資していく循環が重要となります。パブリックマインドのあるプレイヤーの投資に対して、支援する制度を検討します。
- また、城下町エリアに公共投資するために、ふるさと納税等の寄付制度等を活用して、エリアビジョンの実現に向けた財源を確保します。

<具体的なイメージ>

- ・ふるさと納税等の寄付金を城下町エリアの魅力向上プロジェクトに活用 等

▼寄付金の使途先に「城下町魅力向上プロジェクト」を追加

Aコース 夢に向かって！上田城復元×城下町魅力向上プロジェクト



真田昌幸・幸村(信繁)親子が夢をかけ、徳川の大軍を2度も退けたことで有名な上田城。その想いを引き継いだ信之が現在の城下町を創り上げました。

上田城が史実に基づく姿に蘇るよう、そして城下町が一体となって輝くように。“城とまち”の物語を未来へつなぐ取組に、皆様の熱き想いをお寄せください。

【活用例】

上田城の櫓等の復元整備や調査・研究、城下町のまちづくりの取組 など

05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

■Ⅳ：データ活用によるフォローアップ

エリアビジョンのあらゆるアクションの
効果・課題を見える化するために、データを収集・分析します

- エリアビジョンは、あくまで「仮説」となりますが、この仮説を検証するためには、データに基づき可能な限り定量的に効果や課題を把握することが重要です。
- 人流データやシェアサイクルのGPSデータ等のビッグデータを取得・分析し、移動経路や滞留等を把握します。
- さらに、来場者アンケート調査やアクティビティ調査などの各種調査を実施することで、各種事業や社会実験による効果や課題を見える化し、改善策にフィードバックします。

▼ちよいまちプロジェクトでのアンケート調査／261



▼ちよいまちプロジェクトでのアンケート調査／海野町



▼シェアサイクルのGPSデータ



05

ビジョンの実現に向けた基盤整備

■ V：城下町エリアと周辺地域のつながりの強化

上田市を持続可能なまちにするために、
市内他エリアや他市町村、首都圏等と相互に高めあう関係を築きます

- 上田市の中心部に位置する城下町エリアは、歴史的資源や文化的資源をはじめ、多様な社会資本やビジネス拠点等が集積する重要なエリアですが、城下町エリア単体ですべてが完結するわけではなく、農山村を含めた他エリアとの関係性づくりが地域独自の魅力や価値向上に影響を及ぼします。
- 市内他エリアにとっても城下町エリアは重要な拠点であることから、それぞれの強みと機能の補完や、資源循環による相乗効果の創出を目指すとともに、他市町村や首都圏等の他都道府県とのつながりも構築することで、交流人口や関係人口を増やし、城下町エリアでのイノベーションの創出を目指します。
- そして、各エリアや都市とのつながりの強化により、城下町エリアを中心に上田市全体として持続可能なまちを目指します。



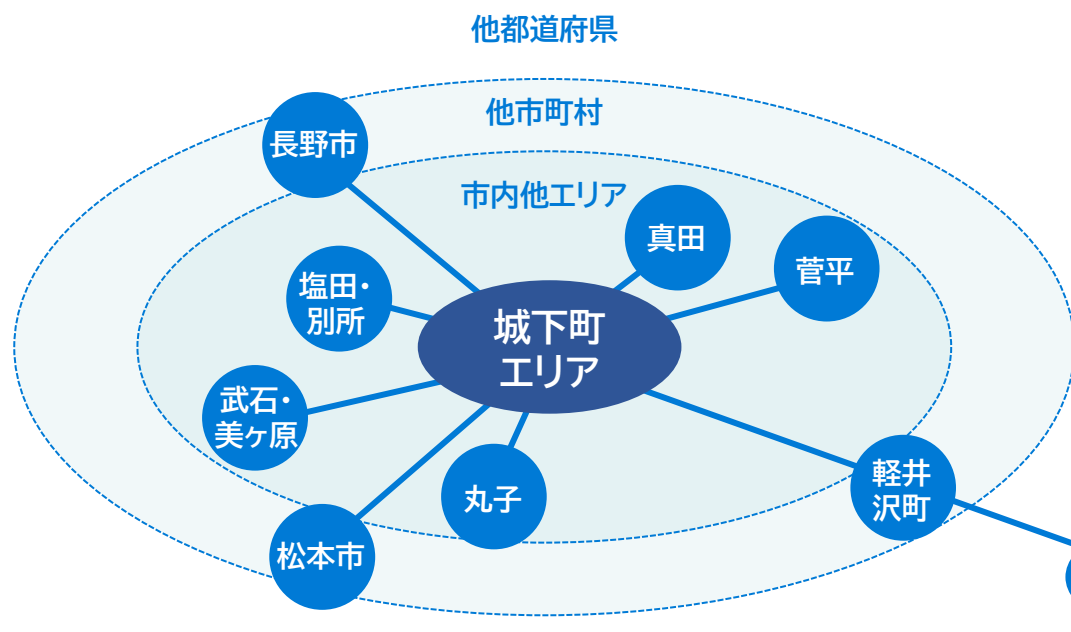
塩田田園地帯



美ヶ原高原



鹿教湯温泉



菅平高原



真田氏館跡

※写真引用：上田市イメージデータベース

06

期待される効果

UEDA AREA VISION

06

期待される効果

- ・ 重点アクション等の実行により、城下町エリアや上田市全体への波及効果として期待される数値を下記に示します。
- ・ なお、これらの数値はあくまでも目安であり、今後は状況に応じて見直す可能性があります。

1. 歩数の増加

- ✓ 城下町エリアを歩く人の歩数が増加する(人流データより)

2. 歩行者数の増加

- ✓ 城下町エリアの歩行者数が増加する(上田市商工課調査より)

3. 滞在時間の増加

- ✓ 城下町エリアの駐車場の駐車時間(滞在時間)が増加する(タイムズ調査より)

4. 事業所数の増加

- ✓ 城下町エリアにおける事業所数が増加する(経済センサスより)

5. 城下町エリアとの接点の増加

- ✓ 城下町エリアを訪れる機会が増加する(市民アンケートより)

07

おわりに

AREA VISION

07

おわりに



上田市長 斉藤達也

私は中学生の頃、中心市街地の衰退を心配し、「このまちの未来を守りたい」という想いを作文に綴りました。その想いは、市長となった今も私の原点です。上田には、さらに大きく飛躍できる力があります。上田城城下町エリアが持つ歴史や文化、人々の営みを未来へつなぎ、市民、事業者、団体、行政がともに挑戦を重ねることで、新たな価値と賑わいを創り出してまいります。未来へ誇れる城下町を、ともに育んでいきましょう。



上田ビジョン研究会 代表 高橋伸英（信州大学繊維学部 教授）

この度、上田市役所の方々と一緒にこのエリアビジョンを作成させていただきました。どうですか？ワクワクしませんか？このエリアビジョンには多くの市民の方からいただいた「こんなまち、いいよね」が詰まっています。「こんなまち」を創り出すプレイヤーとして、そして、そこに参加する一人として、「こんなまち」の実現にむけて、一緒に一歩踏み出してみませんか？ セーのっ！



上田城 城下町エリアビジョン アドバイザー 山下裕子（まちなか広場研究所 主宰）

上田城下町には、車という道具が発明される以前の町割りが色濃く存在している。それを実感する検索では現れない多様な近道ルート。最初の頃は、上田に暮らす皆様の影を追って駅に向かっていった。今では、愛用ルートができました。「関係性が資本（ソーシャルキャピタル）」の時代。上田には資本家がたくさん！街に出かける。が、すべてのはじまり。上田のこれからが、ますます楽しみな冊子が完成。皆様、おめでとうございます！！